

蘇る！「清家新一 超量子力学入門」と「大橋裕朋 虚量子物理観」
（「超相対性理論入門」「虚量物理観」）

堀井敏之

50年前、私が中学3年生の時本屋で見つけた「宇宙の四次元世界」清家新一著によって自分の叶える夢の一つに「空飛ぶ円盤の制作」が組み込まれました。

清家先生はアダムスキーの撮った写真を、トヨタの創始者豊田佐吉が明治時代に外国織機の前に3日間も居座り構造を見抜いた（クリエイティブです）様にして、3つの球形をコンデンサーと見抜き3相交流により回転電場を作っているのではないかと推測、それにより核磁気共鳴ならぬ核電気共鳴を作り極性スピンを反転させ負のエネルギー状態を作っているのではないかという理論を展開させました。

私はクリエイターなので写真を見るのはプロです。メカは外形に構造が現れてくるので、そこを重点的に研究推論しています。

清家先生は量子力学の問題と捉え極性スピんと軸性スピんについての理論について解説しています。メビウスコイルについてスピんとメビウス帯はトポロジ的に等価で2020年にノーベル物理学賞を受賞したロジャー・ペンローズ博士は時空はスピンによるスピネットワークで出来てると言っています。

スピんとメビウス帯がトポロジーと呼ばれる分野で同一とされたのは、20世紀初頭になってからで、1920年代にはオランダの数学者ロピトス・スクラメンデルが、スピんとメビウス帯が同じトポロジー的特性を持つことを示しました。

なので清家先生が知っていてもおかしくはありませんが、よほど先駆的な発想だと思います。

しかし、50年前の量子力学はまだ発展途上で理解できる人も少なく、数式が難しいだけの「トンデモ科学」とされてしまいました。清家先生の実験自体も成果が出ずれていったように感じ、私はその時知り合った「プロジェクト・セザール」の著者、大橋裕朋さんの「虚量物理観」に移行して行きました。

私がページを持っていた小学館「ワンダーライフ」に大橋裕朋「虚量物理観」として掲載させて頂きました。1991年当時もまだ量子力学はまだまだで、大橋さんも「宇宙人の物理学」ではないかと弱音を吐く事も（そして自分が早く死に、完成は見れないことは予期してました）

そして私の認識ですが2015年頃から量子力学は超弦理論を皮切りに今のフェイズに入っていると思っています。量子力学を勉強していくうちに清家新一先生の理論と大橋裕朋さんの理論は同じことがわかりました。

「負の質量」に関しても2017年米ワシントン州立大学で極低温のルビジウムをボーズ・アインシュタイン凝縮体状態を作り出しレーザーなどでエネルギーを与えることでスピンの反転し「負の質量」の様に振るまうことを発見しました。

ただ、マクロ物理学と量子力学は今のところまだ一緒にすることは困難です。

量子は粒子であり波動であり量子力学は確立的な理論で、測定の結果あるいは確率でしか予測できないため、再現性が低いとされています。それと観測問題、私はそれを「シュレディンガーの猫」にまねて「ダルマさんが転んだ猫」と呼んでいます。観測者が「ダルマさんが転んだ」と眼を閉じて見てない時は猫は歩いてます（波動）。観測者が振り向いて見ると猫は止まる！（粒子となる）で再現性は低いのです。観測問題（観測者問題とも言う）は見る人の意識が関係してる可能性もあるのではないかと言うことです。

究極、保江邦夫先生いわく「UFOは愛です」と言っています。（ペンローズの量子脳理論か？）

なので清家先生機もフリーエネルギー機もそう簡単には成功しないです。井出さんも安定させるのが難しいと言ってます。（量子力学だからですと助言しました）

しかし清家理論機も一回だけ飛んでるみたいなのです。

保江邦夫×井口和基「物理で語り尽くせ UFO・あの世・神様の世界」P141 「メビウス巻きの装置が一度だけパーンと飛んで行った。」との記述あり。

ジョンサール機 私はメカの外形に構造は現れると思ってますので、写真を見るとリム付近で制御用パネルが立っているの、これは飛行しないと分からない構造ではないかと考えます。

ロシアのアレクセイ機、彼の配信動画は全て釣ってるように見えインチキくさいですが、装置の構造が清家、大橋理論に合致してるので飛んでいるのではないかと考えています。

アレクセイの「Graviflyer」の構造についてAIのChatGPTに聞いてみました。

>上がN極で下がS極の磁石を円盤に円形に6個貼り付け回転させた時に生じる磁界は？

上がN極で下がS極の磁石を円盤に円形に6個貼り付けて回転させた場合、中心部での磁界はメビウスコイルのような形状を示すことがあります。このような構造は、磁石の回転によって、磁場が回転しながら反転するために生じます。

具体的には、円盤に貼り付けられた6つの磁石が回転することによって、磁場が生じます。N極とS極が隣り合う部分では、磁場が打ち消し合い、磁場が弱まります。しかし、隣り合わない部分では、磁場が重なり合い、中心部では磁場が反転します。このような磁場の反転によって、メビウスコイルのような形状が生じます。（これは知らなかった！ここでメビウスコイルが形成されていたようです）

>ツイスターにメビウスコイルで干渉できるか？

ツイスターは、空間内の回転を表現するための数学的な概念であり、物理学や量子力学の分野で幅広く利用されています。一方、メビウスコイルは、特殊な形状を持つコイルであり、電磁気学的な特性があります。

一般的に、ツイスターにメビウスコイルを用いて干渉を起こすことは困難とされています。ツイスターにおいては、局所的な回転が生じるため、回転対称性が破れることがあります。一方、メビウスコイルは、一度回転させてつなぎ合わせた特殊な形状を持つため、回転対称性があることが特徴です。

そのため、ツイスターに対してメビウスコイルで干渉を起こすことは、通常的手法では難しいとされています。ただし、最近では、量子力学における新しいアプローチにより、ツイス

ターに対してメビウスコイルを用いて干渉を起こすことが理論的に可能であることが示されています。このアプローチは、より高次元の幾何学的な構造を用いることで、従来の手法では扱いづらいツイスターに対しても干渉を起こすことができる可能性があると考えられています。しかし、まだ実用化には至っていないため、今後の研究が必要となります。

> テスラコイルの電磁波でスピン反転させることは可能か？

テスラコイルは、高電圧の交流電源を使用して、高周波の電磁波を生成する装置です。テスラコイルから発生する電磁波は、周波数が非常に高く、電磁波の強度も非常に強いため、物質中のスピンを反転させることができる可能性があります。

物質中のスピンを反転させるためには、外部の磁場を印加する必要があります。テスラコイルから発生する高周波の電磁波は、周波数が高いために電磁波の波長が短く、物質中に浸透しやすい傾向があります。このため、テスラコイルから発生する電磁波は、物質中に浸透してスピンを反転させることができる可能性があります。

> 超音波によってスピン反転させることは可能か？

超音波は、高周波数の音波であり、物質中を伝わる時に微小な振動を引き起こします。この振動によって、物質のスピンの状態が影響を受け、スピン反転が起こることがあります。

AIのこの回答を読むと可能性はあるのではないかと考えられます。